

『マンガでわかる「西洋絵画」の見かた』  
池上英洋/監修 誠文堂新光社 2016年

美術館での絵画鑑賞はしきいが高い?

この本は、そんな先入観が無くなるようなマンガでの絵画の解説本です。

「もっと西洋絵画がわかる キーワード」のページには、当時のヨーロッパの政治・経済・人・美術についても書かれていますので、その時代背景から絵画性もうかがえて深く学ぶこともできます。欄外には、マンガで取り上げた絵画の所蔵館情報も載っています。ルネサンス15世紀から20世紀までの有名な西洋絵画を掲載しています。その中でお気に入りの絵画や画家が見つかるかも知れません。

さて、皆さんご存知の「ゴッホ」についての解説では

ゴッホは、27歳で画家になることを決心。

画家としての活動は、37歳で亡くなるまでの10年間だけです。

その上、傑作と言われている作品は、晩年の2～3年の間に描かれました。

存命中に売れた作品はたったの1枚。現在の人気からはとても信じられないことです。

この本で画家個人や、絵画についての予備知識を得てから美術館に足を運んでみるのはいかがでしょう。きっと、より愉しく鑑賞できますよ。

只今、近くの兵庫県立美術館でゴッホ展が開催されています。私もこの本を読んでから先日鑑賞してきました。掲載されている「タンギー爺さん」や「糸杉」も来ています。あまり馴染みのない初期から、亡くなるまでの作品が時系列で展示されていて、ゴッホの筆致や色使い、作品テーマの変遷を直に観ることができました。今回の展示の内容は、芸術家ならではの苦悩も感じ取れるものでした。

最初期の画風は必見です。また、「ひまわり」とは対照的な色使い、淡い色味の「薔薇」も美しかったです。

是非ともこの機会に、美術館で実物を鑑賞してみたいはいかがでしょうか。

ゴッホ展

～3月29日(日) 兵庫県立美術館

ゴッホについてもっと知りたくなったら

『ゴッホ -最後の3年』

バーバラ・ストック/作 川野夏美/訳 花伝社 2018年

「ひまわり」「星月夜」「夜のカフェテラス」などの傑作が生まれた、亡くなる前の3年間について、オランダで最も読まれているグラフィックノベルです。

アムステルダム・ゴッホ美術館監修

『僕は、ゴッホ』芸術家たちの素顔

ジョージ・ロッダム/文 スワヴァ・ハラシモヴィチ/絵 パイインターナショナル

2015年

もお薦めです。

今後関西で観ることができる絵画展

コートールド美術館展 3月28日(土)～6月21日(日) 神戸市立博物館

ムーミン展 7月4日(土)～8月30日(日) あべのハルカス美術館

楽しみです